１　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　あらゆる自然科学は、一見ランダムに起こっているかに見える自然現象の背後に数理的な法則性が走っていることを直感した科学者たちによって切りかれてきた。その科学的知性の原型は、自然を前にしてじっと観察している子どものうちに見ることができる。

　子どもたちを自然の中に放置すると、しばらくしてそれぞれの興味に従って「観察するもの」を選び出す。あるものは昆虫を眺め、あるものは花を眺め、あるものは空の雲を眺め、あるものは海岸に寄せる波を眺める。そうしているうちに、①子どもたちがふっと観察対象のなかにのめり込む瞬間が訪れる。それは彼らの様子を横で見ているとわかる。

　いったいどういう場合に「のめり込む」のか。それは「②パターンを発見したとき」である。虫の動きのうちにある法則性があることを直感したとき、花弁のかたちにある図形が反復することを直感したとき、岸辺に寄せる波の大きさに一定のパターンがあることを直感したとき、子どもたちは彼らなりのささやかな「予想」を立てる。もし自分の仮説が正しければ、次は「こういうこと」が起きるはずだと考える。そして自分の「予想」の通りの「イベント」が起きるかどうか息を詰めて見守る。そのとき、子どもたちは自然の中に一歩踏み込み、自然と融合している。それは、はたで見ていても感動的な光景である。そのとき、私たちは彼らのうちで科学的知性が起動した瞬間に立ち合っているからである。　このような「対象へののめり込み」は③どちらもランダムな現象の背後に存在する数理的秩序を求めている点では変わらない。（　Ａ　）、一点だけ決定的に違うところがある。それは先駆的直感には時間が関与していることである。「熟す」という言い方をしてもいい。青い果実が時間とともにしだいに果肉を増し、赤く変色し、ずしりと持ち重りのする熟果になるプロセスにそれは似ている。

　④フェルマー予測は証明までに３６０年がかかった。その予測が維持されたのは、時間の経過とともに予測の証明に「近づいている」という実感を世代を超えた数学者たちが共有したからである。

　「私が見ているものの背後には美しい秩序、驚くほど単純な法則性が存在するのではないか」という直感はある種の「ふるえ」のような感動を人間にもたらす。　自分は今、これまで誰も気づかなかった⑤「巨大な知の氷山」の一片に触れた。それはあまりに巨大であるために自分ひとりでは、一生をかけても、その全貌を明らかにすることはできない。だから、まだ顔も知らない（まだ生まれてもいない）未来の協働研究者たちとのたしかな連帯を感じるときに、ひとは「ふるえ」を覚えるのだと私は思う。

（ 「反知性主義者たちの肖像」）

◎問１　――線部①について、

⑴　筆者は、傍線部の後の第三段落で次の三つの具体例ａ「虫の動き」・ｂ「花弁のかたち」・ｃ「波の大きさ」を挙げている。それらのどのような性状に「のめり込」んでいるというのか。最も関連する語を次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

　ア　一定のパターン　　イ　図形の反復　　ウ　時間　　エ　法則性

⑵　筆者はその光景を見て、改めてその「瞬間」をどのような「瞬間」だととらえ直し、表現しているか。解答欄に合うように、第三段落から十字以内で抜き出して答えなさい。

◎問２　――線部②とあるが、それはどんなふうに「発見」するというのか。次の文の空欄に入る最も適当な語を後から一つ選び、記号で答えなさい。

　子どもたちは自然現象を観察することによって、ある種のパターンを（　　　）的に発見する。

　ア　瞬間　　イ　科学　　ウ　感動　　エ　直感

問３　――線部③とあるが、何と何を指しているのか。本文中からそれぞれ五字で抜き出して答えなさい。

◎問４　空欄Ａに入る接続語として、最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

　ア　それでなくても　　イ　だとすれば　　ウ　でも　　エ　やはり

◎問５　――線部④とあるが、「フェルマー予測」を筆者はどのようなたとえで表現しているか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

　ア　青い果実　　イ　果肉が増した果実

　ウ　赤く変色した果実　　エ　ずしりと持ち重りのする果実

問６　――線部⑤とあるが、「知の氷山」とは何のたとえか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。　ア　まだ見ることのできない、科学に支えられた未来社会。　イ　長い時間をかけても、将来解明したい自然の法則性。　ウ　過去に発見し蓄積してきた、数多くの科学的な法則。　エ　なにげなく見ている、数多くのランダムな自然の姿。

２　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　「まなび」というのは知識の習得のことではない。人に何かを諭されることだ。口で、ではない。その人のふるまいやまいに諭される、そういう経験のことである。諭されるという言葉が硬ければ、ベルクソンにならって、だれかとの出会いのなかでじぶんが①「打ち開かれる」経験だと言ってもいい。学校に行くというのは、家族や近所のおとなではない、「先生」や「守衛さん」といった別のおとなに出会うということである。そのとき、当然のことながら、戸惑いなり違和感なりにまずは襲われる。【Ⅰ】

　たとえば、わたしが高校に進学し、そこで出会った教師たちは、わたしがそれまでなじんでいたのとはずいぶん異質な肌ざわりの人たちだった。（中略）大学に入って、さらに多くのヘンな教授の存在にふれることになった。そのたびごとに、こんな身の処し方もあるのかと、心の中でった。もちろんあきれること、ばかばかしくなること、なさけなくおもうことも累々とあった。（中略）そしてそこから多くを「まなんだ」。【Ⅱ】

　そういう「まなび」がしばしばドラスティックに起こったのは、書物のなかでである。というか②そういうドラスティックな出会いを求めて、いろんなジャンルの本をむさぼり読んだ。それまであたりまえとしてとくに問わなかったじぶんの思考の前提ががらがらと崩れさる、そういう瞬間をもとめて。大学二年生のときにはじめてふれたメルロ＝ポンティの言葉でいえば、「おのれ自身の端緒がたえず更新されてゆく経験」というのが、その頃のわたしの読書体験の基調だった。そしてその思想家や文学者たちは、こういう場面ならあの人はどう考え、どうふるまうだろうか、というわたしの問いかけの宛先であるような人たちだった。内田さんがどこかで書いておられたと記憶するが、実在の、あるいは書物のなかの人との出会いをきっかけに、それまでより「もっと見晴らしのよい場所に出る」ということが、「まなび」の意味だと、わたしもおもう。「出会い」、この言葉が甘ったるければ「じぶんが打ち砕かれる経験」と言いなおしてもよいが、それは予測できないかたちで起こるものだから、その意味で、「まなび」は学校の管理者によって囲い込まれるはずのないものだ。【Ⅲ】

　ここまでつらつらと書いてきた「学校」での思い出は、まことにありふれたものである。漱石の『坊っちゃん』のほうがはるかに気の利いたカリカチュアを描いている。③はじめて「異人種」にふれたときの小さな驚き、それをいまも鮮明にえているのは、当時の小さな無数の経験のなかでこれらだけはなにがしかの痕跡をいまもわたしにしつづけているからだ。他の出会いはぜんぶ忘れても、この人たちの人としての感触だけは、時とともに意味をずらせながらもじわりじわり膨らんできた。④アイデンティティといえば生涯をつらぬく一本の糸のように変わらないものと考えられることが多いが、わたしは逆で、「じぶんはだれか？」と問うときには、じぶんがこれまで出会い、それを機にじぶんが打ち砕かれてきたその不連続の出来事、そしてじぶんを打ち砕いた相手の名を列挙することのほうがはるかに実情に近いとおもっている。「まなび」は他者をとおして起こるものであり、あの時はわからなかったが今だったらわかるというふうに、長い時間のなかでじっくり醸成されてゆくものだからだ。【Ⅳ】

（『おとなの背中』）

◎問１　次の文は文脈上、本文の【Ⅰ】～【Ⅳ】のどこに入るものか。最も適当な箇所を選び、記号で答えなさい。

　これまで出会ったことのない人たちだから、どういうかかわり方をしていいのかわからないからだ。

問２　――線部①とあるが、筆者の経験では、具体的にどのような人たちとの出会いのことを言ったものか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

　ア　高校の異質な肌ざわりの教師たち

　イ　家族や近所のおとな

　ウ　大学の多くのヘンな教授

　エ　学校の管理者

問３　――線部②について、

⑴　どのようなことを求めているのか。解答欄に合うように本文中から四十字で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。

⑵　このような「出会い」のことを筆者は何と表現しているか。傍線部より後の本文中から、十五字以内で抜き出して答えなさい。

◎問４　――線部③「はじめて『異人種』にふれたとき」に感じたものは、時の経過のなかでどうなっていったのか。本文から三十字以内で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。（句読点は一字に数える。）

問５　――線部④に対する筆者の考えを説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中から抜き出して答えなさい。ただし、アは五字以内、イは二字以内とする。

　「アイデンティティ」とは、一般的には、生涯にわたり（　ア　）じぶんのことを意味するものだと考えられているが、逆に筆者は長い時間のなかで（　イ　）をとおして徐々に作り出されてゆくじぶんのことだと考えている。

問６　筆者は本文で「まなび」とはどのようなものだと言っているか。適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。　ア　知らなかった知識が蓄積されていくような経験。　イ　人のふるまいや佇まいに諭されるような経験。　ウ　閉ざしていた心が開いて人と通じ合うような経験。　エ　視野が広がりじぶんが生成されていくような経験。　オ　先人をまねて自らの痕跡を遺していくような経験。

３　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

　一人の親あり。き所へきて、をうけて、二人の子のあるがもとへＸ告げやりたるに、一人の子は、たる所、近し。一人の子は居所、遠し。

　近き子は聞くままに行きけるが、夜ふかく、道おそろしくて、のの有りけるに入りて、①夜明けてかんとⓐ思ひて入りぬ。遠き子は、さがりて行きけるが、それもあまりにおそろしかりければ、この塚穴に入りて、夜明けて行かんと思ひて入りけるを、②もと入りたる子は、鬼くらひにたると思ひ、今入りたる子は、塚の中に鬼ありてⓑくらはんとするなりと思ひて、Ａかたみに、くらはれじとて、Ｙ取りくみ、引きくみて、Ｂ夜もすがらからかひて、夜明けて見れば、わがにみなしてげり。

　ひのⓒも、かくのごとし。

（『宝物集』巻第六）

この本文の後には次のような文章が続いている。

【悩みや迷いの多いこの世­­の中を生きていくことは、まるで闇夜の中をさまようようなものだ。しかし、ひとたび仏さまのように悟りを得ると、ぱっと迷いも晴れて夜明けのように穏やかですがすがしい気持ちで生きることができる。】

◎問１ ＝　線部ⓐ〜ⓒを現代仮名づかいに改めなさい。すべてひらがなで書きなさい。

◎問２　――線部Ｘ・Ｙの主語は誰か。最も適当なものをそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

　ア　一人の親　　イ　二人の子　　ウ　鬼と二人の子　　エ　衆生

問３　――線部①を現代語訳しなさい。

問４　――線部②とは、誰のことか。本文中から三字で抜き出して答えなさい。

◎問５　〰〰線部Ａ・Ｂの語句の意味として、最も適当なものを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

　　ア　身体を堅くして　　　　　　ア　晩早くから

Ａ　イ　お互いに　　　　　　　Ｂ　イ　夜になって

　　ウ　半身になって　　　　　　　ウ　一睡もしないで　　エ　片隅に　　　　　　　　　　エ　一晩中

問６　作者はこの話を通して、人々にどのようなことを伝えようとしているのか。 最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。　ア　つまらないことで兄弟げんかをしてはいけないということ。　イ　私たちの人生は、はかなくむなしいものと悟りなさいということ。　ウ　迷いや苦しみの多い世の中だから、悟りを求めなさいということ。　エ　この兄弟のように親孝行を心がけなければいけないということ。

４　次の各問いに答えなさい。

◎問１　次の――線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

　①　ほっと安堵する。　②　星が瞬く。

　③　雨具を用意する。　④　試行錯誤を繰り返す。

◎問２　次の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。　①　キビしい自然。　　②　センモン家の意見。

　③　キョクチ的な雨。　④　カクシンをついた意見。

◎問３　次の各文中の――線部の助動詞が表す意味を、後の語群からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。　①　明日の朝は、絶対に早く起きようと心に決めた。　②　おそらく雨は降るまい。　③　夢を見ているような気分です。　④　この道を右に曲がった所に図書館があります。

　ア　勧誘　　　　イ　否定　　ウ　過去　エ　打消推量　　オ　尊敬　　カ　丁寧　キ　比況　　　　ク　断定　　ケ　意志

◎問４　次の月の異名として最も適当なものを、後の語群からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

　①　二月　　②　三月　　③　六月　　④　九月　　⑤　十二月

　ア　如月　　イ　神無月　　ウ　長月　　エ　師走　　オ　水無月　　カ　弥生◎問５　の「」について、①は「方位」、②は「時刻」を、解答欄に従ってともに漢字で書きなさい。

問６　次の漢文を書き下し文にしなさい。漢字とひらがなで答えなさい。

①　縁リテ 木ニ 求ム 魚ヲ。

　 レ　 レ

②　不ンバ 入ラ 虎 穴ニ 、不 得 虎 子ヲ 。

　 レ　 二 一 レ　　 二 一

【解答】

１（30点）

問１　⑴ａ：エ　ｂ：イ　ｃ：ア　 ２点×３

　 ⑵科学的知性が起動した（瞬間）　 ４点

問２　エ　 ４点

問３　科学者たち・子どもたち（前後不問） ４点（完解）

問４　ウ　 ４点

問５　ア　 ４点

問６　イ　 ４点

２（25点）

問１　Ⅰ ２点

問２　ア・ウ ２点×２

問３　⑴それま（〜）れさる（ようなこと。）　２点

⑵じぶんが打ち砕かれる経験 ２点

問４　時とと（〜）きた。 ３点

問５　ア：変わらない　イ：他者　　　 ３点×２

問６　イ・エ　　 ３点×２

３（20点）

問１　①おもい　②くらわん　③しゅじょう　 １点×３

問２　Ｘ：ア　Ｙ：イ　 ２点×２

問３　夜が明けて（から）行こう　　 ３点

問４　近き子　　　 ３点

問５　Ａ：イ　Ｂ：エ　 ２点×２

問６　ウ　　　 ３点

４（25点）

問１　①あんど　②またた（く）　　 １点×４

③あまぐ　④さくご

問２　①厳（しい）　②専門　③局地　④核心 １点×４

問３　①ケ　②エ　③キ　④カ　　 １点×４

問４　①ア　②カ　③オ　④ウ　⑤エ １点×５

問５　①西　②（午）後六（時ごろ）　 ２点×２

問６　①木に縁りて魚を求む。 ２点×２

②虎穴に入らずんば、虎子を得ず。